

ワールド ウッド トレンド

No. 10, 2 OCTOBER 2017

低迷中の台湾木材市場及び主要木材製品の 1-5 月輸入実績

台湾木材市場は、2015 年、2016 年と 2 年連続で不振が続いたが、2017 年に入っても未だ明らかな好転は見られない。一部の木材製品は統計データで回復傾向を示しているが、市場全体の景気は依然低迷が続いている。これは、主に国内の建築市場の低迷と、住宅取引市場の萎縮、および政権交代からまだ日が浅いことによる影響から、市場の需要は伸び悩んでおり、2017 年もまた経営の苦しい 1 年になるであろうと業界は見ている。

このような状況の中、2017 年 1~5 月の木材輸入実績は、以下のとおりとなっている。

(1) 原木

2017 年 1-5 月の原木輸入量は約 16 万 4,900m³であり、前年同期と比較して 18.95% (約 3 万 8,600m³) 減少した。

仕入国別にみると、マレーシアからの輸入が約 6 万 9,600m³で 7,700m³の減少、ニュージーランドからの輸入が約 4 万 3,400 m³で 2,900m³の減少、日本からの輸入が約 2 万 1,100m³で 7,100 m³の減少、パプアニューギニアから入が約 4,700 m³で 9,600m³の輸入減少となっている。

日本から輸入される原木は近年スギがその大部分を占めているが、2008 年から上昇し始めた輸入量は、2014 年のピーク (10 万 1,200m³) を境に、それ以降年々下降し続けており、2015 年は 7 万 8,400m³、2016 年は 6 万 1,800m³となっている。今年の 1~5 月における 1 か月あたりの平均輸入量は 4,223 m³で、前年同期の月平均量 5,653m³と比較して 25.3%減少退しているが、これは台湾の建築市場の景気不振によりコンクリート型枠用合板の需要が縮小したことが主な原因であると考えられる。

(2) 製材品

製材品輸入量は約 50 万 5,600^m³ で、前年同期と比較してわずかに 1.75%、8,800^m³ 増加している。

今年の統計データによると、製材品の需要はすでに回復傾向を示しており、月間需要量は 10 万 ^m³ 以上にまで回復している。2014 年の月間需要量 11 万 ^m³、2015 年の 10 万 8,000 ^m³ には及ばずとも、景気が低迷する木材市場において、これは明るい数値であるといえる。

仕入国別にみると、カナダからの輸入（SPF・ツガ・ベイマツ等）が約 18 万 5,700 ^m³ と最も多く、アメリカからの輸入（サザンイエローパイン等）は約 3 万 9,100 ^m³、中南米からの輸入（チリのラジアタパイン等）は約 2 万 8,500 ^m³、ヨーロッパからの輸入（クモスギ、チョウセンゴヨウ等）は約 9 万 6,700 ^m³、マレーシアからの輸入（主に広葉樹材であるが、一部室内リフォーム用のアガチスも輸入）は約 4 万 4,900 ^m³、インドシナ半島からの輸入（広葉樹材）は約 2 万 2,500 ^m³ である。オーストラリアからの輸入（ラジアタパイン等）は約 3 万 3,200 ^m³ で、ニュージーランドからの輸入（ラジアタパイン）は約 2 万 6,000 ^m³ である。

(3) 合板

合板輸入量は約 24 万 1,800 ^m³ で、前年同期比でわずかに 2.62%、6,100 ^m³ 増加している。

仕入国別にみると、中国からの輸入が約 9 万 2,800 ^m³ で占有率は 38.37%（前年同期は 33.95%）、マレーシアからの輸入が約 8 万 3,600 ^m³ で占有率は 34.59%（同 30.95%）、インドネシアからの輸入が約 4 万 8,900 ^m³ で占有率は 20.26%（同 29.98%）である。インドネシアからの輸入量と占有率の減少が最も大きくなっているが、これは昨年インドネシアが台湾市場に向けて低価格で販売した合板の占有率が、例年の約 15%から一気に 30%近くにまで上昇してマレーシアと肩を並べるほどになったが、コストに合わない低価格での販売は長く続かず、今年上半期の輸入量が急低下し、前年同期の 7 万 600 ^m³ から今年の 4 万 8,900 ^m³ にまで落ち込んだ（減少幅は 54.2%）ことによるものである。

(4) ブロックボード

ブロックボードの輸入量は約 2,400 ^m³ で、極めて少なかった。台湾市場におけるブロックボードの使用量は非常に大きいですが、そのほとんどを台湾製が占めており、輸入製品は品質と価格において優勢を得ることができない。そのためブロックボードの輸入量は極めて少ない。

(5) 単板

単板輸入は約 10 万 900 m³ で、前年同期比 21.43% 増加 (1 万 7,800 m³ の増加) となった。

仕入国別にみると、マレーシアからの輸入 (主にラワンや熱帯産雑木などの広葉樹単板) が約 3 万 8,700 m³ で占有率は 38.41%、インドシナ半島 (主にベトナム) からの輸入 (主にユーカリ単板) が約 1 万 7,700 m³ で占有率は 17.62%、中国からの輸入 (主にユーカリ単板) が約 1 万 7,300 m³ で占有率は 17.19%、チリからの輸入 (主にラジアタパイン単板) が約 9,700 m³ で占有率は 9.68%、ニュージーランドからの輸入 (主にラジアタパイン単板) は約 9,600 m³ で占有率は 9.56% となっている。輸入された単板はその大部分が合板、ブロックボードおよび LVL 角材の製造に利用されている。

(6) ランバーコア

ランバーコア輸入量は約 15 万 6,100 m³ で、前年同期比 26% 増 (3 万 2,200 m³ の増加) となった。

仕入国別にみると、インドネシアからの輸入 (主にギンゴウカンランバーコア) が約 14 万 7,100 m³ で占有率は 94.22%、マレーシアからの輸入 (主にラワンや雑木などの広葉樹ランバーコア) が約 2,500 m³ で占有率は 1.63% となっている。今年上半期の輸入量は昨年と比べて明らかに増加しているが、これは国内の室内リフォーム市場の景気が良かったためではなく、前年同期の輸入量が少なく、比較基準値が低かったことによるものである。

(7) パーティクルボード

パーティクルボード輸入量は約 12 万 2,500 m³、前年同期と比較して約 1 万 2,000 m³ の増加 (増加幅は 10.87%) となった。

国内における木材市場の景気は振るわないが、低価格で加工が容易なパーティクルボードが家具と室内リフォームの用途においてファイバーボードや合板に取って代わり、そのため供給量が一定の水準に保たれている。下半期における加工品輸出市場の需要は増加し、今年の年間輸入量は 30 万 m³ 台に達すると見込まれている。

(8) ファイバーボード

ファイバーボード輸入量は約 6 万 2,000 m³ で、前年同期と比較して約 2,900 m³ の増加 (増加幅は約 5%) となった。

ファイバーボード市場は、前世紀末には年間 23~25 万 m³ の輸入量があったが、その後年々減少し続けており、2015 年には 15 万 m³ を切った。その主な要因は、

パーティクルボードに取って代わられたことにある。今年の年間輸入量はおよそ 14 万 m³になるとみられている。

2017 年 1-5 月の主要木材製品輸入実績

| 区分 | 2017 年 1~5 月 | 2016 年 1~5 月 | 前年同期比 (%) |
|-----------|--------------|--------------|-----------|
| 原木 | 164,975 | 203,547 | -18.95 |
| 製材 | 505,600 | 496,890 | 1.75 |
| 合板 | 241,890 | 235,703 | 2.62 |
| ブロックボード | 2,409 | 4,178 | -42.34 |
| 単板 | 100,940 | 83,127 | 21.43 |
| ランバーコア | 156,146 | 123,888 | 26.04 |
| パーティクルボード | 122,524 | 110,507 | 10.87 |
| ファイバーボード | 62,055 | 59,076 | 5.04 |

(本文は現地レポートを基に編集したもの)